



創立記念講演会 5月23日（金）

講師：鈴木 基之さん 恵那高校 25 回生
（ホリプログループホールディングス取締役）

演 題：個性を引き出し活躍するタレント育成術
～ホリプロの『サラダボウル戦略』とは～

鈴木さんは本校の同窓生です。日本の芸能界を代表する大手プロダクション「ホリプロ」において、長年新人の発掘と育成を手がけたり、作品の主演募集など様々なオーディションを取り仕切ったりしてこられました。また、近年では数多くの大型海外ミュージカルの翻訳上演や日本初のオリジナル作品にも取り組んでいらっしゃいます。名だたる才能を見出してきた発掘の達人であり、現在はグループ各社を取りまとめる立場でいらっしゃいます。また、恵那市観光大使として教育委員会が開講している「演技ワークショップ」の仕掛け人でもあります。



講演は、「自分の靴を脱ぎ、他人の靴を履いて考える」という言葉から始まりました。共感することは難しくとも、その人になりきって理解しようとする姿勢が大切だという意味の言葉は、ご自身が演劇に携わられてきた鈴木さんの経験に裏打ちされたものということもあり印象深い幕開けとなりました。

エンタメが社会に与える影響について、講演会当日にちなんだ話がありました。戦後に、日本初のキスシーンが登場する映画が封切られたのがちょうど 79 年前の 5 月 23 日だったそうで、戦後の日本人の意識を変えるエンタメ界のターニングポイントとして紹介されました。配信やサブスクリプションといった形態のエンタメが勢いを持ったことで、『SHOGUN 将軍』が世界的に高く評価された事例を紹介され、文化の壁を越えて人々に影響を与えるエンタメの可能性についても語られました。

また、鈴木さんは、自身のキャリアを振り返りながら、「人を喜ばせることがエンタメの原点である」と語り、堀ちえみさんや石川さゆりさんのエピソードを通じて、「エンタメには人の心を癒し、人の生きざまを変えてしまう力がある」ということを実感したと述べられました。

紹介された言葉のひとつひとつが鈴木さんと経験と結びついており、そんな鈴木さんの「靴を履き、脱いだ」高校生が今後どのように歩んでいくか、楽しみになる講演会でした。

